



会長 紺野 広 青少年奉仕 夏川戸 齊  
副会長 橋本 昭一 幹事 松本 剛典  
クラブ奉仕 橋本 昭一 会計 妻神 和憲  
会長エレクト 橋本八右衛門 会場監督 佐々木泰宏  
職業奉仕 道尻 誠助 直前会長 小林 幹夫  
社会奉仕 岡崎 孝文 副幹事 小田山紀暢  
国際奉仕 鶴飼 寿栄 会計補佐 小井田和哉

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル  
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内  
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661  
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp  
http://hachinohe-rotary.org/  
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 上村 奉樹  
同委員 妻神 和憲 同委員 野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ

世界に希望を生み出そう

和而不同 (わじふどう)

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

2月 は 平和と紛争予防 / 紛争解決月間です

第3303回例会 2024.2.21

### ▶ ビジター

林 亨様 (野辺地ロータリークラブ)

野辺地八幡宮の宮司をしております。きょうは2時から長者山新羅神社で会合があります。先週、今週の2回例会を欠席していますので、ちょうどいい機会ですので八戸クラブさんにメイクに伺いました。南グループの例会に出るのは今回が初めてです。またガバナー、パストガバナーもいらっしゃいますので、ちょっと緊張しています。

年に1回以上は新しいクラブに行こうということ自分を課しています。それはコロナの4年間でもそれを達成することができました。先月は仙台北ロータリークラブにメイクに行きました。先ほど、築館ガバナー、村井パストガバナーにもご挨拶申し上げましたが、村井パストガバナーと同期の佐々木パストガバナーがおられました。「村井パストガバナーとはお父さんの時代から仲良くさせていただいているので、お会いすることがあったら、よろしくお伝えください。」とことづかったことをご挨拶させていただきました。

野辺地クラブは会員が15名を切ってしまいましたので、なかなか辛いところがあります

が皆様と共にロータリーのために頑張っているとございますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

### 会長要件 紺野 広 会長



この前、右近彩葉さんの卓話を頂戴しました。わたしはロータリーに入って、身近なところで困っている人がいたら、そちらを優先したいと思いましたが、webで世界で行っている奉仕活動支援が身近なものとしてしることができて、その意義に関してもしっかりと感じとることができ、勉強させていただきました。

今、国際奉仕委員会の子算に関してはウクライナ支援がありました。まだ侵攻はストップされていません。ただ、先の卓話でご参加いただきました大阪ロータリークラブの杉野様からメールをいただきました。もしかしたら今年度のウクライナ支援はできないかもしれない。現状のコサック周辺のウクライナ難民に関しての状況をお知らせさせていただきましたので、ご紹介します。

「先日は例会に参加させていただき、また卓話にも参加させていただきましたことに感謝申し上げます。

ウクライナ支援については、現在も先方とも話ができている状況です。右近さんの卓話にも出ていたヘンリックさん、間に入っていた近藤さんなど関係者全員で実施させていただいているのは、個人でのワルシャワへの旅行となっておりますが、こちらについても今年も継続するかどうかという点で未決定となっております。先方との話の進捗具合によって、時期、内容が変化していく可能性がありますので、何か動きがありましたらお知らせし、タイミングが合えばご一緒させていただければ幸いです。

刻々と変化するウクライナ情勢です。昨年のことを思い出すと、ひじょうに早いスピードで即断即決が求められる場合が多く、処置を伴ったところもあります。そのような事情からお知らせとご判断の合間がないような状況となる場合もありますこと、併せてご承知おき頂ければ幸いです。

何を置いても皆様からのご支援について力強いお声を頂戴していることを重ねて御礼申し上げますと共に、心からウクライナ支援、自分の将来を見つめる一人の女性、右近彩葉さんをよろしくお願ひいたします。」

杉野さんは仕事でいらっしゃるかもしれないので、その時はメーカーに伺わせていただきたいということを追伸で書かれています。

右近さんのいるポーランドの地区のウクライナからの孤児はほとんどウクライナに戻ったそうです。まだ1,000万人近いと言われていて、各国への避難民は現実のものとして、そこにあるということです。ですので、右近さんを通じない形でのウクライナ支援もあろうかと思ひます。来週は日赤の方のウクライナ支援についてご披露しますので、それも併せて今後の国際奉仕の有り方、予算の施行に関してお考えいただきたいと思ひます。

## 幹事報告 松本 剛典 幹事



・築館ガバナーからご紹介いただいたロータリーが支援している映画で「じょっぱり一看護の人花田ミキ」の先行上映が3月3日、八戸市公民館で行われます。地区から無料チケットを2枚いただきましたので、ご覧になりたい方はお申し出ください。

・中グループインターシティミーティングのご案内。3月30日(土)ホテル青森 申込期限は2月末ですので、ご参加希望の方は事務局までお願いします。

## 委員会報告

親睦・会場委員会

宮下 悟委員長



○ニコニコボックスの報告

・誕生祝 高田文昭さん

山村和芳さん

卓話よろしくお願ひします。道尻誠助さん 山村さんのお話し楽しみにしております。

渡辺 孝さん

山村さん担当例会よろしくお願ひします。田村さん新会員卓話楽しみにしています。

堤 幸治さん

3月1日付で東北電力(株)青森支店部長兼八戸営業所長の転勤発令を受けました。住まいは青森市になりますが、八戸RCは継続です。引き続きよろしくお願ひいたします。

橋本八右衛門さん

白山台は余計に寒く感じます。体調に気をつけましょう。

熊谷清一・小井田和哉・赤澤栄治 } ニコニコ  
小田山紀暢・夏川戸 齊さん } デー

新会員応援 I DM報告

栗谷川敏彦さん

2月14日、“やなぎにかえる”で、15名が参加で開催しました。たいへん勉強になる話がたくさん出まして、新会員もいろいろな話



が伺えてたいへん勉強になりました。

### 「各企業の災害対策について」

夏川戸 齊さん



わたしの会社は三菱電機の代理店として三菱電機の製品を販売しています。その中でご紹介したいのではエレベーターについてです。エレベーター

には地震を感知する、P波、S波を感知する装置がついています。地震が来ると止まりますが、途中の階で止まると困るので、最寄りの階で止まることになっているのが一般的です。停電になった際も一緒に、途中の階で止まったときは最寄りの階で止まるという形になっています。

皆さんはエレベーターの中は見ることがないと思いますが、電話機がついています。この電話機はメーカーあるいは管理会社に通話ができるようになっています。電話にはネット回線などさまざまありますが、その電話回線はアナログ電話といまして、災害に強い従来型の回線を使って外部と連絡を取るという形です。インターホンがついていて、ビルの管理室などに通話できます。メンテナンス会社と契約していれば、自動的につながるとかの契約もあります。

わたし共では災害に関連して非常用発電機を扱っています。停電になると約10秒以内で発電機が回って、その発電機に繋がっている機械に電気を供給することになります。ただ発電機もいつまでも回っているわけではない。燃料がないと切れてしまいます。契約によって何時間もちますということもありますので、ずっと回っているわけではないです。皆さんもお気をつけいただきたいと思います。

米山委員会担当例会

山村和芳委員長

本来の米山月間の10月にできなかったので、

今になりました。きょうは地区で作成したパワーポイントを見ながら進めていきたいと思います。タイトルは「あなたに届け 米山の架け橋」です。今回のお話の目的は新会員の方もいらっしゃると思いますので、ご存じの方も改めて理解していただければと思います。米内記念事業に対する理解、米山奨学生との交流、米山記念寄付の促進についてお話していきたいと思います。

・米山記念奨学会：“米山記念”とは何か。日本のロータリークラブ創設者のひとりである米山梅吉翁が亡くなったとき、その偉業を称えて、この精神を受け継いで始められました。

米山記念奨学会とは日本のロータリークラブが独自に創り育ててきた留学生対象の奨学団体。1952年に東京ロータリークラブが奨学事業を立案して、その後、当時の文部省(現文部科学省)の許可を得て、財団として設立されました。詳しいことはHPを参照してください。

・米山奨学事業：目的は将来、母国と日本の架け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としている。国際奨学団体としては事業規模、採用とも日本国内では民間最大です。成果は年間の奨学生の採用数は約900人。これまで支援してきた奨学生数は累計で22,875人です。(2022年7月現在) 出身国は世界約129の国と地域に及んでいます。

・米山奨学生に求められるもの：米山奨学生に求められるものとして優秀性、異文化理解、コミュニケーション能力が挙げられます。学業に専念しつつ、世話クラブがお世話をし、例会や各事業での交流を通じ、ロータリー精神を学び、将来国際社会で活躍できる人間として成長していく。

当クラブでも八戸学院大学の鄭さんがいますが、彼女は今いろいろ研修などあって、なかなかクラブに出席できませんが、折を見てぜひ参加したいということです。その時にはよろしくお願いします。

・世話クラブ・カウンセラー：世話クラブは経済的支援に留まらない心の交流をしていた

だく場。例会に月1回出席を促し、米山奨学生と交流を育んでもらう。相談相手としてカウンセラーを選任する。カウンセラーは米山奨学生の良き相談相手として個人的ケアに当たる。

・米山奨学生の活動：月1回以上例会に出席しなければならない。卓話でのスピーチで、もし要望があれば、他のクラブからも要請を受け付けている。親睦、奉仕活動への参加もしていただく。地区米山奨学会への活動、オリエンテーション、卓話講習会、修了証授与式、米山の集いなど。

・奨学金プログラム：ロータリー米山記念奨学事業の指定校となっている学校の対象学年を対象として、課程修了までの最長2年間に奨学金を渡す。1回約70,000円～140,000円の支給。奨学金はロータリー米山奨学会から世話クラブへ送金され、世話クラブから奨学生へ支給していただく。

・寄付の種類：普通寄付金と特別寄付金の2種類あります。普通寄付金は全ロータリークラブ会員からクラブを通じて定期的にいただく寄付で、全員同額で徴収しています。特別寄付金は普通寄付金以外に任意でいただく寄付金です。例会時に徴収しています。米山ボックスなどを活用してやっています。税制上のメリットは、ロータリー米山奨学会は内

閣府より公益財団法人の認定を受けているので、所得税、法人税の税制の優遇が受けられます。また寄付累計額により個人への表彰米山功労者が受けられます。

昨年もお話させていただきましたが、地区委員長は野坂さんですが、できれば2023-24年度特別寄付を1人20,000円以上、普通寄付を3,000円以上ということで再三お話をいただいています。ぜひクラブにも伝えて欲しいとのことでしたので、何卒ご理解をいただきながらお願いしたいと思います。昨年2021-22年度の地区寄付実績ですが、個人の平均寄付額8,512円。全地区から比べると3番目。特別寄付者の割合も43.1%と低くなっています。奨学生のためにさらなる力を貸してくださいという野坂委員長からのコメントをいただいています。

2830地区では今年度12名の米山奨学生をお世話することが決まっています。これから日本と母国の架け橋として一生懸命に頑張っている彼らにぜひとも心温まるご支援をいただきたいと思います。資料をゆっくりご覧いただき、またHPなどにも記載がありますので何とか皆さんに協力をお願いしてお話とさせていただきます。



## 新 会 員 卓 話



昨年10月に新会員で入りました。初の卓話です。この時間を活用して自分を知っていただく時間にしたいと思います。前半わたしの話、後半は昔作ったDVDを流したいと思います。

青森銀行はご存じの通り転勤がつきものです。銀行員生活34年になりますが、転勤をいくつも重ねて県内を中心に歩いています。出身が八戸で、八戸が通算12年ですので、銀行員生活の中の1/3が八戸市内での勤務になります。若い時には三沢支店、東京支店、平内町小湊支店など各地回ってきました。最近

(株)青森銀行 田村礼吉さん

八戸市内と青森の本部のどちらかを交互に回っています。

地元八戸で勤務するのは、昔ならあまり他の地域に行くというのは理由は定かではありませんが、あまり地元で仕事をするというのは人事上はなかったのですが、ここ最近やはり地元に戻そう、人のつながり、育ったところでつながりを持って、そこに貢献しようといったことから、やはり地元に戻すという流れになっています。現在は青森銀行の支店は八戸には10店ほどありますが、やはり八戸出身の支店長が今多くなっています。ほとんど8割方が八戸出身の支店長になります。わ

たしもその中で支店長としては3店経験しましたが、それもぜんぶ八戸市内です。城下支店、湊支店、八戸支店です。これもひじょうに恵まれた人事だと思っています。

そんな中で単身赴任をする時期が当然ありますが、34年間の中で単身赴任をしたのは7年間です。家を建てて子供が学校に入ってから青森に転勤したときに、妻と子供を置いてというのが7年間ありました。が、周りからすると7年というのはどちらかというと短いほうかと思っています。今のわたしの上司の松橋は八戸地区営業本部長は、わたしと同じく八戸出身ですが、昨年八戸地区営業本部長で八戸に来ましたが、それまでは八戸出身でありながら連続14年間単身赴任をしていたそうです。14年ぶりに今自宅から通っているようです。それに比べるとわたしは恵まれているかと思っています。

転勤していく中で、楽しみにしているものがあります。やはりその地域の歴史や歩みがどうであったのか、そういうものを調べながら、時間があるときにちょっといろいろ、その本屋に行きながら歴史を見ていく。どういった形で町が形成されて、どういうふうに人口が集まって、産業が生まれ、今に至っているのか。こういうものを調べていくのがひじょうに楽しいと思いつつながら、転勤をするのも苦痛ではなく楽しみにしながらやっていました。

先般、前原さんの卓話の中で「中心街の昭和ノスタルジー」ということで、中心街の今と昔の写真のスライドを見させていただきました。わたしはひじょうに興味のある、大好きな分野、興味のあることで、ひじょうに見入ってしまいました。見ている中で思い出したことがありました。

わたしもかつて似たようなものを作ったことがありました。わたしは写真を撮るわけでもないし、映像を集めているわけでもないのですが、やはり興味があって昔と今ということで、特に昭和30～40年の高度成長の、いろんなところに人が集まっているときのようすを白黒写真をみると、こういう時代もあったな、なにか生き生きしているなということ

感じながらいたので、かつてそれを作ったことを思い出しました。

それが今から7年前、わたしが湊支店長をやっているときに店開設100周年という節目でした。100周年、一世紀でしたので100周年祝賀会をやろうということになりました。約1年ほど前からいろんな構想をしながら、支店の職員を3人集め、3分割して委員会を立ち上げ営業推進、祝賀会ではなにをするなどのチームを作って準備をしてきました。そういった中で、わたしは湊支店の地区がどういうふうな昔はあったのかをいろいろ写真を集めました。写真を集めるに当たってお客様のところに行ったり、デーリーさんにお邪魔して協力いただいたり、八戸市図書館、博物館に行つて写真をぜんぶ漁りながら集めたものでロビー展をしたりし、最終的にDVDにしました。

今回皆さんに見て頂きたいと思います。  
DVD上映

100周年祝賀会でこのDVDを流しました。かなり時間をかけて作ったのですが、たった1回しか皆さんにお披露目することができませんでした。今回、この場をお借りして2回目のお披露目になりましたので、個人的にはひじょうに満足しています。なんだかんだ言いながら、わたしは地元八戸が好きだと、このDVDを見て改めて思いました。こんなわたしですが、皆さんとお付き合いできればいいなと思いますので、よろしくお願ひします。

**紺野 広会長**：弘前に五十九銀行がありますね。弘前が本店ですか。

**田村**：青森銀行がいくつも銀行が合併してできています。八戸銀行、階上銀行、泉山銀行が合併して、合併の繰り返しで青森銀行になっています。

**紺野 広会長**：すごく歴史のある銀行ですね。勉強になりました。

**副幹事**：例会終了後、理事役員会を行います。

出席報告					出席委員会					
第3303回例会（2月21日）			第3301回例会（1月31日）							
出席率		58.1%	出席率		63.5%	修正出席率	74.6%			
総会員数		64名	出席数		36名	総会員数		64名	メイクアップした人数	7名
出席義務会員	出席免除会員	欠席数	出席義務会員	出席免除会員	欠席数					
62名	2名	26名	63名	1名	16名					